

米沢市立病院新病院建設基本計画（案）に係るパブリック・コメントの結果について

- 1 募集対象「施策の案」等の名称
米沢市立病院新病院建設基本計画（案）
- 2 募集期間
平成31年1月29日（火）から平成31年2月19日（火）まで
- 3 意見の提出者数及び件数
提出者数 2名 / 提出件数 5件
- 4 意見の内容及び意見に対する回答

No.	意見の内容	意見に対する回答	修正の有無
1	<p>【全体計画12、13ページ】</p> <p>ES、SPDを一体としたSP事業は斬新ですが、事業期間、施設整備費と運転・維持管理までを含めたトータルコストについて、直接整備した場合と、SPによる整備の場合との比較結果について、記述した方が良く考えます。</p>	<p>エネルギーセンターやサプライセンターについては、具体的な事業期間、事業範囲、事業費等について、三友堂病院などの関係者との協議を踏まえて検討していくことにしており、現時点で比較結果を掲載するまでには至っておりません。なお、市立病院が得る土地の貸付収入、外部事業者が得る施設の賃貸料やテナント収入などと建設コストを総合的に検証していかなければなりません、現時点では、直接事業よりもメリットはあると考えています。</p>	無
2	<p>【全体計画13ページ】</p> <p>入院診療単価は、29年度実績で48,624円。開院前年度見込48,693円。開院年度には59,809円と大幅なアップを想定されています。計画ではその根拠として、手術件数増、各種管理料・加算等の算定を挙げられていますが、10,000円以上のアップの実現可能性はかなり低いと指摘せざるを得ません。客観的なデータを用いた説得力のある記述が必要と考えます。手術件数増やICU病床増・HCU設置による管理料・加算増には、それらを運用する医師と看護師の配置計画人数やICU・HCU病床利用率の計画が必要であり、それらが現時点から判断して開院までにどのように実現していくのかを説明していただきたい。</p> <p>入院診療単価が1,000円変わるだけで医業収益は約1億円変動します。収支計画策定上の根幹といえる数字ですので、よろしく願いいたします。また、開院は11月ということで年度後半ということを考えると、2023年の医業収益の見込額には疑問符を付けざるを得ません。このあたりも説明をお願いします。</p>	<p>本計画の実現可能性については、無理な計画とならないように、両病院の機能分化・医療連携のあり方について協議を重ねた上で、市立病院に急性期機能が集約される効果のみを織り込む計画としています。なお、手術件数増加等については、現在の両病院の実績のみとし、無理な引き上げは行っていません。加算等についても、両病院の機能集約により算定可能となるICU・HCUの効果のみを見込んでいます。また、本計画、必要となる医師、看護師の配置については、両病院職員の人事交流などを基本としながら、関係大学や養成機関などへの働きかけを継続して行い、必要な人員確保に努めていきます。</p> <p>2023年度の医業収益見込額ですが、両病院の機能分化については、開院日に急に機能の切替えが出来るものではないため、今後5年の間に機能移行の時期を含めて協議していくこととしており、あくまでも現時点ではありますが、2023年度の初旬には移行がある程度進んでいると想定したものです。</p>	有

3	<p>【全体計画 1 3 ページ】</p> <p>病床利用率は 2017 年度実績で 78.1%、新病院開院時の 2023 年度では 86.5%を計画されていますが、診療単価を 10,000 円以上アップさせるためには、計画記載以外に、平均在院日数（平成 28 年度で 16.0 日）のさらなる短縮と、DPC 係数のアップが不可欠です。しかし、在院日数を 13 日程度に短縮しつつ病床利用率を 85%以上とすることは、他の公立病院の状況をみてもその実現はかなり困難なのではないでしょうか。三友堂病院との機能分担と連携には期待いたしますが、可能な限り根拠となるバックデータを入れた収支計画の策定をお願いいたします。</p>	<p>病床利用率については、無理に引き上げているわけではなく、両病院の機能分化後の急性期の患者数を市立病院側に割り戻した結果となっています。在院日数についても、無理な短縮は行っておらず、両病院の DPC データに基づき、急性期を脱した患者は、三友堂病院を始めとした地域の医療機関へ転院することを想定しています。更に、病床数も削減していますので、現在の両病院の急性期の患者数や、今後の人口動態を踏まえると本計画の到達は無理のない水準と認識しています。なお、いただいたご意見にある平均在院日数は、回復期を含めたものと推測しますが、市立病院の 7 対 1 病棟（急性期のみ）の在院日数が 11.8 日（平成 31 年度 11 月～1 月実績）ということもあり、一概に困難な計画だとは考えておりません。</p>	無
4	<p>【全体計画 1 3 ページ】</p> <p>医業収益に占める人件費（人件費比率）は、2017 年度実績で 65.1%。それを新病院開院時は、60.3%に低下させる計画となっていますが、急性期診療機能の充実と診療単価の大幅なアップのためには、前述したように医師、看護師の増員が必須であり、そのような中で、どのようにして人件費率を低下されていくのかを具体的に記述をお願いします。</p>	<p>人件費率については、両病院の機能分化に伴う医業収益の増加が大きく影響しており、更に、急性期機能の集約に伴う人員増加を見込んだ上で、開院後は低下するような計画となっています。さらに、新病院におけるハード・ソフト機能の向上や業務改善などによる人員の適正配置を見込んだ計画としています。なお、人件費率が低下するといっても、急性期病院としては、高い人件費率となっていますので、今後とも引き続き経営改善に取り組んでいきます。</p>	有
5	<p>【全体計画 4、1 1 ページ】</p> <p>【提案】</p> <p>基本計画案の P 4 には、「病院職員の働きやすさにも重点を置き」とあり、P 1 1 には、「現在は、市立病院、三友堂病院ともに保育所を保有しており、相互利用が可能な体制を想定しています」とありますが、この保育所について、下記病院例のようなさらなる拡充を提案します。</p> <p>【理由】</p> <p>市立病院の職員、特に看護師をいかに増やしていくかは、働きやすい職場をどうつくっていくかが大きなポイントだと思います。このことに関して、数年前に「ガイアの夜明け 子育てママを救うとニッポンが変わる！」という番組が放映されましたので、その内容を紹介したいと思います。</p> <p>番組では、①働く女性は、出産・育児を契機に退職する例が多いこと、②看護師も例外ではなく、特に夜勤のある看護師にとってフルタイムで働くことは難しくなること、③免許を持つ看護師は</p>	<p>現在のところ両病院の保育人数は、40 人を超えており、併せて週 3 回の夜間保育を実施しています。</p> <p>本計画では、新病院が目指す要素の一つとして、病院職員の働く意欲が向上する職場環境の提供や、医療従事者が集まる魅力のある病院を目指すことを掲げていますので、ご提案いただいた内容を参考としながら、より多くの職員に利用していただけるような施設や保育内容等となるよう、両病院で協議をしていきます。</p>	有

全国で約 225 万人いてその 9 割が女性であり、そのうち働いていない人が約 72 万人いて、その多くは出産や子育てが理由であること、を述べ、こうした状況の中で、「働きたい…」と全国から女性たちが集まる「驚きの病院」を紹介しています。

それは、鳥取大学医学部附属病院と病院が経営する「すぎのこ保育所」の例です。

この保育園では、①職員の子ども約 100 人を預かり、②24 時間保育、病児保育も実施、③鳥大病院の医師も診察、常勤の看護師も配属されています。

番組では、この保育園に子どもを預けている看護師の一日を追っています。この人は、シングルマザーで子ども 2 人。17 時からの勤務前に子どもを保育所に連れていき、自分は救命救急センターで翌日 9 時まで勤務する一方、子どもは夕食を食べ、お風呂に入れてもらい、21 時就寝です。

病院改革の陣頭指揮を執ってきた院長は、「女性たちが最も活躍できる環境をつくるのが我々の目的。女性を甘やかせることはやっていない」と述べています。

さらに、将来結婚して子どもができた時のことを考えて兵庫県からやってきたという 23 歳の独身助産師や、東京、大阪、福岡など県外からやってきた看護師が多いことを紹介しています。その数は 3 年間で 20 人。看護師約 750 人のうち 150 人が子育てをしながら働いているということです。

このような保育園が整備されれば、子育てに迫られる女性の皆さんが安心して働くことができるとともに、この病院で働きたいと移住してくる人や家族も現れることと思います。そのことは病院の医療体制の強化につながるだけでなく、少子化対策や待機児童の解消にもつながるのではないのでしょうか。

以上のことから、新病院建設を契機に、保育所のさらなる拡充について提案いたします。

パブリックコメントによる米沢市立病院新病院建設基本計画（案）の修正内容

頁	修正前	修正後
1 1	<p>(5) 保育所 現在は、市立病院、三友堂病院ともに保育所を保有しており、相互利用が可能な体制を想定しています。</p>	<p>(5) 保育所 現在は、市立病院、三友堂病院ともに保育所を保有しており、相互利用が可能でより利用しやすい環境となるよう整備します。</p>
1 5	<p>(4) 入院診療単価（患者1人1日あたり収入） 救急部門や重症病棟の拡充により、手術件数の増加や各種管理料・加算等の算定により、現状よりも入院診療単価が上昇することを見込んでいます。</p>	<p>(4) 入院診療単価（患者1人1日あたり収入） 救急部門や重症病棟の拡充により、手術件数の増加や各種管理料・加算等の算定により、現状よりも入院診療単価が上昇することを見込んでいます。<u>なお、手術件数の増加や各種管理料・加算等の算定については、現在の両病院の診療実績に基づき、急性期機能の集約による増加分のみを見込んでいます。</u></p>
1 5	<p>⑤ 職員給与費 急性期機能の集約・強化により、主に医師及び看護師の増員を想定しているほか、機能の共同利用等により効率化・省力化が可能な部門については、適切な人員配置を見込んでいます。病院職員数については、患者数の変動に伴い増減する前提としています。なお、給与単価は、現状の水準を想定しています。</p>	<p>⑤ 職員給与費 急性期機能の集約・強化により、主に医師及び看護師の増員を想定しているほか、機能の共同利用等により効率化・省力化が可能な部門については、適切な人員配置を見込んでいます。病院職員数については、患者数の変動に伴い増減する前提としています。なお、給与単価は、現状の水準を想定しています。 <u>人件費率は、上記の人員配置の考え方による人件費の推計に対して、単純に医業収益との割合を算出したものです。</u></p>

【参考】米沢市立病院新病院建設基本構想に関する意見等に対する回答

1 意見の提出者数及び件数

提出者数 1名 / 提出件数 3件

2 意見の内容及び意見に対する回答

No.	意見の内容	意見に対する回答	修正の有無
1	<p>現市立病院地へ三友堂病院も一緒に移転するにあたり、市立病院周辺の混雑が考えられると思います。救急搬送の際は、スムーズに搬送できるのか、渋滞が問題になるのではないかと懸念しております。</p>	<p>周辺道路などの交通アクセスに関しては、県や市の関係機関と協議を進めながら、渋滞などを生じさせないような方策を検討してきます。</p>	無
2	<p>三友堂病院が移転するにあたり、市西側に総合病院がなくなる点について不安を感じております。せめて、高齢者人口が増加している平成37年度頃まで（基本構想第1章1-(2)より）現三友堂病院地に縮小型の機能を残してはいただけないのでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見については、三友堂病院にお伝えします。なお、跡地利用については、基本的に三友堂病院の考えを尊重する形になりますが、市に対して何らかの相談があれば対応を検討したいと考えています。</p>	無
3	<p>新病院建設にあたり、周辺に全国のチェーン薬局が参入するのではないかと推測しております。ぜひ、地元の薬局（現三友堂周辺の）を配置できる様、検討いただきたいと思います。地元企業を守っていただきたいです。</p>	<p>今後、地元の調剤薬局を中心に組織されている米沢市薬剤師会などのご意見を参考にしながら、両病院に係る調剤薬局のあり方について検討していきます。</p>	無